

発見された遺構と遺物

今年度の調査では、古墳時代・鎌倉時代の竪穴住居跡6軒、掘立柱建物跡6棟、土坑85基、溝跡17条や祭祀遺構・井戸跡・畑跡などの遺構と、縄文時代・古墳時代・鎌倉時代の遺物が見つかりました。

古墳時代後期 お祭りを行ったと思われる場所が見つかりました。ここからは土師器や土玉が出土しました。その近くからは畑跡も見つかりました。



(1号祭祀跡)

古墳時代終末期 小規模な居住域が営まれていたようです。そのなかでも、1号住居跡の床下から、底が欠けた土師器が見つかりました。また、5号住居跡のカマド周辺からは、手捏ね土器が見つかりました。



(1号住居跡)

(5号住居跡)

鎌倉時代 今回の発掘調査で主体を占めるのが鎌倉時代の遺構です。竪穴状遺構・掘立柱建物跡・土坑・溝跡・井戸跡・小穴などが見つかりました。遺物は陶磁器・かわらけ・鉄製品・銭貨・獣骨・羽口・鉄滓などです。そのなかでも、1号土坑からは茶器の鉄製獣足手取釜が出土しました。今までの出土事例からみて、県内で最古のものかもしれません。陶器は常滑産のものが大半を占めています。磁器は中国から輸入されたもので、青磁・白磁などがあります。銭貨も中国から輸入されたもので、北宋銭が大半を占めていますが、1点だけ唐銭が見つかりました。



(獣足手取釜)

今までの徳定A・B遺跡の発掘調査では、古墳時代後期の住居跡が数多く見つかりました。しかし、今回の発掘調査では、鎌倉時代の遺構と遺物が多く見つかりました。そのなかでも、獣足手取釜・青磁などが出土していることから、当時の有力者の居住域である可能性が高まってきました。このことは、今回の調査の大きな成果と言えます。

ごまどうあとくようとう
護摩堂趾供養塔

※この供養塔は、嘉暦2年(1327)の銘があり、郡山市指定文化財です。今回調査した付近から見つかったと言われ、現在は甚日寺の境内に設置されています。



徳定A・B遺跡 現地公開資料

日時 令和2年10月10日(土)
午前10時～午後3時

調査場所：郡山市田村町御代田地内
調査面積：3,000㎡
調査期間：令和2年4月20日～
令和2年11月20日(予定)
調査主体・機関：公益財団法人
福島県文化振興財団

はじめに

公益財団法人福島県文化振興財団では、阿武隈川上流河川改修事業御代田地区に伴う徳定A・B遺跡の発掘調査を実施しています。

徳定A・B遺跡は、JR東北本線安積永盛駅の東方約300mの沖積地及び河岸段丘上に所在する広大な遺跡です。これまでに、福島県教育委員会による東北新幹線建設工事に伴う発掘調査、郡山市教育委員会による土地区画整理事業などに伴う発掘調査が実施されています。

本遺跡の周辺には、御代田B遺跡(弥生時代前期の標識遺跡)、淵の上遺跡(1号墳からは、全国でも数例しかない甕が出土)、篠川館跡(足利満直[第2代鎌倉公方足利氏満の次男]が下向し居館を構えた場所)などの著名な遺跡や石造物などが分布しています。

今回の発掘調査では古墳時代と鎌倉時代の居住域などが見つかりました。

周辺の主な遺跡と石造物





4号溝跡銭貨出土状況



6号住居跡



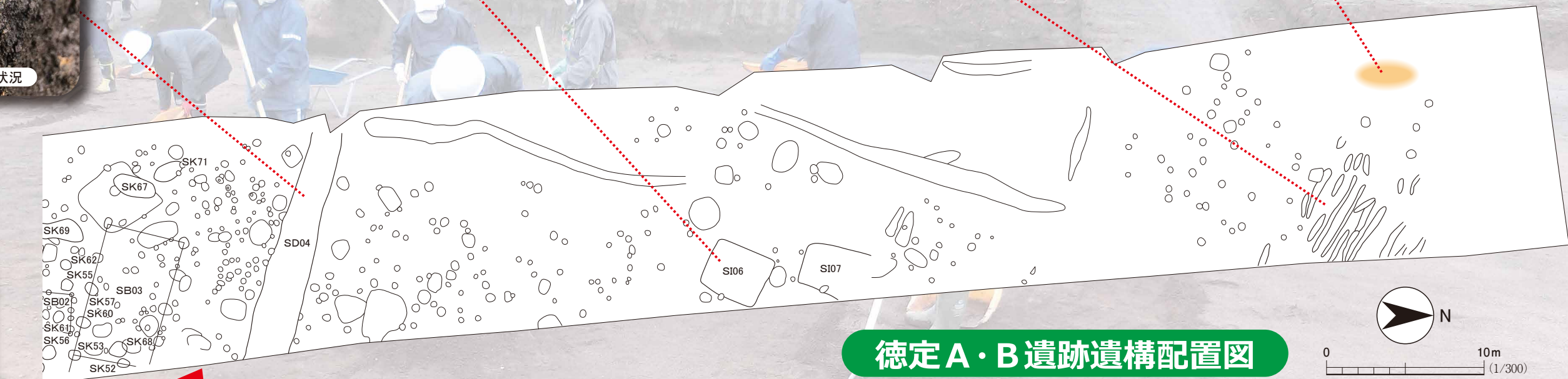
畑跡



祭祀遺構

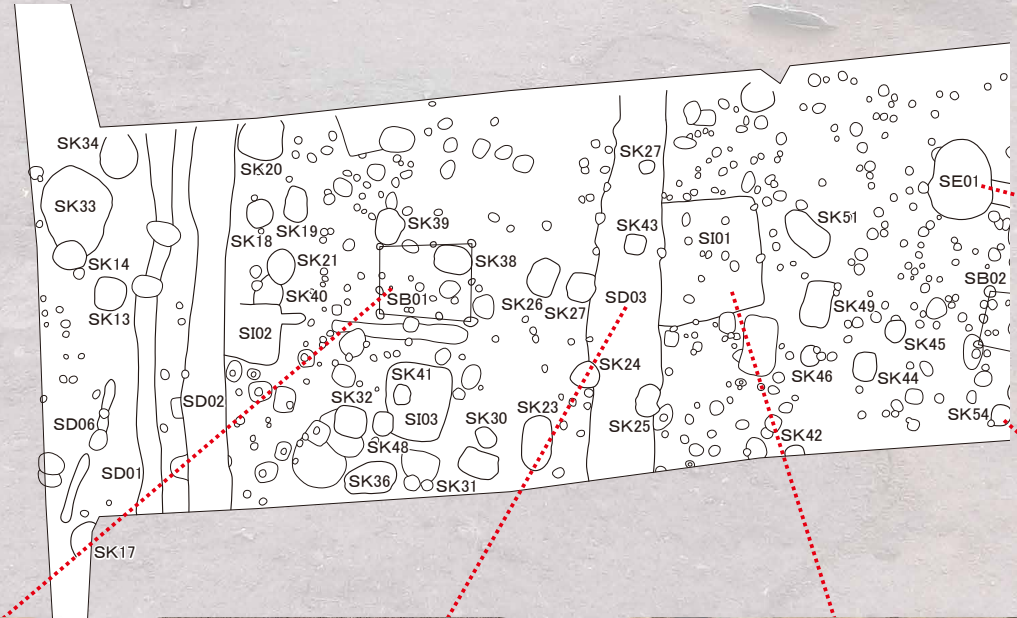
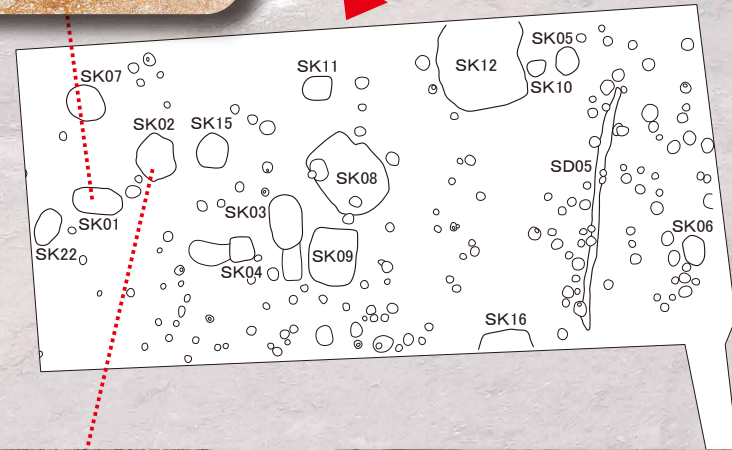


1号土坑獣足手取釜出土状況



徳定A・B遺跡遺構配置図

- 0 10m (1/300)
- SB: 掘立柱建物跡
SD: 溝跡
SE: 井戸跡
SI: 竪穴住居跡
SK: 土坑



1号井戸跡



2号土坑銭貨出土状況



1号建物跡



3号溝跡かわらけ出土状況



1号住居跡



54号土坑青磁出土状況